

最良の鈍針付きコグ糸を用いた患者満足度の高い 切らないフェイスリフト(Jリフト)

岡田 宇広

Takahiro Okada, M.D.

東京皮膚科・形成外科 銀座院

TokyoSkin&Plastic Surgery Clinic

■抄録

【目的】

切らないフェイスリフトともいわれるスレッドリフトのために今まで様々な糸が開発されてきたが、多くの本数を要する場合や針の刺入に伴う内出血や痛みリスクが存在した。近年、各種の鈍針付きコグ糸を使用する事により内出血リスクが少ない施術が可能となってきたが、今回われわれは各々の製品における特長と効果の違いから現段階で最良と思われるコグ糸を選定し、より患者満足度の高い施術が可能であったので報告する。

【方法】

各種の鈍針付きコグ糸を使用して顔面のたるみに対する引き上げを行った。刺入点を少なくする事がより低侵襲になると考えてコグ糸の刺入点を最小限とし、局所麻酔も鈍針を併用して行った。

【結果】

各種の鈍針付きコグ糸によって引き上げが可能であり、施術時間も短かった。明らかな内出血を生じた症例も鈍針のためなく、針の刺入点も少ないことから早期に洗顔や化粧が可能であったが、各々のコグ糸によってその効果や術後経過に違いが認められた。最も引き上げる力が強く、また二次的な肌の若返りとリフトアップ効果の持続が期待できると考えられるコグ糸を選定した。

【考察】

スレッドリフトは手技の簡便さから顔面のたるみの程度によってはフェイスリフトの選択枝の一つとされている。鈍針付きコグ糸を用いた方法は鈍針のためより低侵襲であり、切るフェイスリフトと比較して多くの医療機関で実施可能と思われるが、使用するコグ糸によって患者満足度が大きく異なる事が予想される。今回われわれは最も効果の高いコグ糸を選定し、局所麻酔も鈍針を併用して刺入点も最小限とする手法で行ったが、低侵襲でありながら効果が高いため美容医療に関心のある医師によって安心、安全に広く日本で行われうる手法と考えられた。その最良のコグ糸による施術を特にJリフトと呼称した。今後も引き続きより効果が高く安全なコグ糸の比較検討を行っていきたいと考えている。